

平成30年度

学校評価を活かした学校改善



〈資料〉

- 1 アンケート結果一覧（生徒・保護者・教職員）・・・・・・・・ P1～P2
- 2 アンケート結果の分析・・・・・・・・ P2～P8
- 3 次年度に向けての改善点・・・・・・・・ P8～P9
- 4 学力向上アクションプラン・・・・・・・・ P10～P22

千葉市立高洲第二中学校

平成31年2月

1 アンケート結果一覧 (生徒・保護者・教職員)

アンケート結果の見方

〈表の見方について〉

4 (そう思う)、3 (少しそう思う)、2 (あまり思わない)、1 (思わない) の数値で、それぞれの平均値を表している。 ※「わからない」の回答については、平均値の集計数からは除いてある。

	項目内容	生徒	保護者	教職員
		上段は30年度 (下段は29年度)		
1	私は楽しく充実した学校生活を送っている。 (子どもは楽しく充実した学校生活を送っている)	3. 7 (3. 7)	3. 5 (3. 6)	3. 3 (3. 5)
2	先生方は生活上のトラブルや生徒指導の問題などに素早く適切に対応してくれる。	3. 4 (3. 6)	3. 4 (3. 4)	3. 3 (3. 2)
3	先生はわかりやすい授業をしてくれる。 (学校では授業を工夫し、きめ細やかな指導に努めている)	3. 4 (3. 4)	3. 2 (3. 3)	3. 3 (3. 5)
4	私は普段から元気なあいさつをすることを心がけている。 (子どもは、普段から進んであいさつをしている)	3. 2 (3. 5)	3. 3 (3. 3)	2. 5 (3. 0)
5	私は学校や社会のルール・マナーを守っている。 (子どもは、学校や社会のルール・マナーを守る意識が育っている)	3. 6 (3. 6)	3. 4 (3. 5)	2. 9 (3. 2)
6	私は敬語など正しい言葉遣いができている。 (子どもは、敬語など正しい言葉遣いができている)	3. 4 (3. 4)	3. 1 (3. 1)	2. 8 (2. 7)
7	私は清掃活動にしっかり取り組んでいる。 (学校はそうじがいきとどいており、気持ちの良い環境を整えている)	3. 6 (3. 7)	3. 2 (3. 4)	2. 7 (3. 2)
8	私は部活動に意欲的に取り組んでいる。 (子どもは、部活動に意欲的に参加している)	3. 7 (3. 7)	3. 5 (3. 6)	3. 2 (3. 1)
9	先生は、学習や生活の悩みについて相談に乗ってくれる。 (学校は生徒や保護者の悩みや相談ごとに親身になって取り組んでいる)	3. 4 (3. 5)	3. 4 (3. 4)	3. 6 (3. 5)
10	私は学校行事や学年行事などに意欲的に取り組んでいる。 (子どもは、多くの行事に意欲的に取り組んでいる)	3. 6 (3. 7)	3. 5 (3. 6)	3. 8 (3. 7)
11	私は学校の授業をしっかり受けている。 (子どもは、学校の授業を大切に、真剣に受けている)	3. 6 (3. 6)	3. 3 (3. 4)	3. 3 (3. 4)
12	私は中学校からのお知らせや便りなどを親に渡している。 (中学校からのお知らせや便りなどを子どもから受け取っている)	3. 4 (3. 4)	3. 2 (3. 2)	2. 8 (2. 9)

13	学校は学力向上（学習相談・学習計画表・特別活動での学習指導など）に向けて熱心に取り組んでいる。		3. 3 (3. 3)	3. 0 (3. 2)
14	授業のはじめに（めあて・ねらい）が示されていた。	3. 3 (3. 4)		
15	学習の見通しをもって授業に取り組んでいる。	3. 2 (3. 3)		
16	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていた。	3. 0 (2. 9)		
17	授業で扱うノート(プリント)には、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた。	3. 2 (3. 3)		
18	普段の授業で、意欲的に学習に取り組んでいますか。	3. 4 (3. 5)		
19	私は、本を読むのが好きで、朝読書の時間は楽しい。	3. 3 (3. 4)		2. 9 (3. 1)
20	道徳の授業は楽しく、充実している。	3. 1 (2. 9)		2. 6 (2. 7)
21	学習規律に関する毎月の重点目標を意識して授業に取り組んでいる。	3. 2 (3. 5)		2. 8 (3. 1)
22	総合的な学習（チャレンジタイムなど）の時間は充実している。	3. 7 (3. 1)		3. 2 (3. 2)
23	学校は教育活動の内容や様子を学校から出される様々な便りなどをおして、わかりやすく伝えている。		3. 4 (3. 5)	3. 5 (3. 8)
24	学校は行事や授業参観など、保護者が参観できる機会を積極的に設けている。		3. 5 (3. 6)	3. 5 (3. 7)
25	学校にはいじめや暴力などがなく、安心して学校に行っている。	3. 7 (3. 3)	3. 5 (3. 6)	3. 3 (3. 6)

2 アンケート結果の分析

【生徒用学校評価アンケート結果について】

全ての項目で平均値3.0を超えており、昨年度と比べても大きく下がった項目はない。概ね良好な結果といえる。ひとつひとつの項目をみると、最も上位の項目は平均値が3.7で、以下の4つである。

【最も評価が高かった（3.7）の項目】

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 私は楽しく充実した学校生活を送っている。 |
| 8 | 私は部活動に意欲的に取り組んでいる。 |
| 22 | 総合的な学習（チャレンジタイムなど）の時間は充実している。 |
| 25 | 学校にはいじめや暴力などがなく、安心して学校に行っている。 |

まず、1の項目の平均値がかなり高いことから、学校生活を全般的に肯定的に捉えている生徒が多い

ことが伺える。その理由としては、他の項目として挙げられた3つが考えられる。1つ目は運動部や文化部の「部活動」への取り組み、2つ目はチャレンジタイムを含む「総合的な学習」への取り組み、3つ目はいじめアンケートや個別面談を含む「教育相談」への取り組みである。

(1) 「部活動」の取り組みについて

本校では4つの運動系（バレーボール、サッカー、卓球、ソフトテニス）、3つの文化系（音楽、生活文化、美術）の部活動がある。運動系の部活動については、総合体育大会、新人大会など大きな大会に向け、上級生を中心にして、主体的に日々練習に取り組んでいる。【図1】文化系については、大きな大会への参加こそないが、地域の行事への参加や、学校行事への取り組みも多くある。例えば、音楽部では地域の「5・5まつり」で合唱や演奏を行ったり、新入生歓迎会などの学校行事でBGMを担当したりしている。また、総合体育大会の際には運動部に向け、美術部は応援幕をつくったり、生活文化部は千羽鶴を折ったりしている。その他には、12月の百人一首大会では美術部が看板を作成しており、文化系の部活動についても、様々な場面で生徒の主体的な活動が見られた。【図2】

しかし、近年、生徒数の減少により、それぞれの部活動での課題が検討され、部活動の見直しを進めてきた。来年度以降、本校では3つのことを行う予定である。



図1 総合体育大会でのようす【サッカー部】



図2 昇降口に飾られている百人一首大会の看板【美術部】

- ① 文化系の3つの部活動（音楽部、生活文化部、美術部）について、来年度4月から活動を1つにし、名称を「文化部」として活動する。
- ② 「男子ソフトテニス部」と「女子ソフトテニス部」を併せて、来年度4月から「ソフトテニス部」とする。基本的には一緒に活動する。
- ③ 「卓球部」について、来年度の新入生の募集はしない。新3年生については、夏の総体まで活動できるようにする。新2年生については、本人の希望を聞き、夏までの活動を含めて確認する。その際、転部希望があれば認める。

今現在、意欲的に部活動に取り組む生徒が多い状況であるが、今後の生徒の様子や気持ちに寄り添いながら、適宜見直しが必要である。

(2) 「総合的な学習の時間」の取り組みについて

本校では、総合的な学習の時間を利用して、「共生」をテーマとして、学年の枠を取り払い全学年合同で、社会的体験・調査活動などの実践的な活動に重点を置き学習を行っている。昨年度から、学区の小学校との交流活動を新しく取り入れ、今年度は高洲四小と真砂五小の2校との交流を行った。主な学習内容と活動の流れは以下の通りである。



図3 真砂五小で小学生(1,2年生)と交流する様子【チャレンジタイム】

【学習内容・活動の流れ】

- ・「共生」を踏まえた「福祉」「環境」「国際理解」「地域連携」などに関する活動テーマを設定する。
- ・生徒は活動テーマを一つ選択する。
- ・現地での調べ学習、体験的な活動を行い、気づき、成果を実感する。
- ・体験した活動等について、グループごとに振り返りを行い、「共生」について考える機会とする。
- ・校内放送で、他のグループの活動について伝え、お互いの様子について知る。

【平成30年度に行ったテーマ（7つ）】

- ・インクルーシブ社会を目指して
- ・小学生と遊ぼう ～地域とのかかわり～
- ・様々な面から幼児へ理解を深め、心優しい人になろう
- ・レクリエーションについて学ぼう
- ・学校周辺の歴史と文化を調べよう
- ・クリーン作戦
- ・国際交流をしよう

また、総合Bとして、1年生「校外学習」や「高校卒業後の上級学校訪問」、2年生「職場体験」「自然教室」、3年生「修学旅行」等、学校行事についての準備や事後指導を行っている。これらの行事についても、生徒たちは意欲的に取り組んでいることが分かる。

（3）「教育相談」の取り組みについて

まず、生徒が安心して学校へ通えるよう、年3回（5、10、1月）「いじめアンケート」を行っている。その中で一つでも気になる項目にチェックしている生徒については、個別に担任による聞き取りを行い、素早く対応できるようにしている。これは、何か問題の前後で、その問題に対して、すぐに教職員が対応できる仕組みとしている。

また、本校では、積極的な生徒指導のひとつとして「教育相談」を行っている。生徒が抱える多様な適応上の諸問題について、教育的・心理的な支援を行うとともに、校内相談体制の構築を進め、一人ひとりの生徒の個性の伸長や健全な育成を図ることを目的とし、以下のように年3回の「教育相談」を行っている。

《1回目》

1年生は入学式、2年生はクラス替えが行われて1か月後の5月、3年は修学旅行のため6月に担任との二者面談を行った。新年度の初めにあたり、生徒、担任ともに新しい気持ちで顔を合わせ、1年を意欲的にスタートするとともに、生徒の困っていること、不安なことなどがなく確認し、効果的な対応と指導を行うことができた。

《2回目》

10月下旬から11月にかけて、日ごろ話す機会の少ない生徒と職員の間で、相談活動を含めた会話の時間を設定し、信頼関係を築くための教育相談を実施した。2回目は、生徒の希望にしたがい、全校生徒一人一人が希望する教職員（校長、教頭も含む）と会話をした。また、生徒と教職員との人間関係づくりに主眼を置き、生徒個人に向けて行うアンケートを補助資料として使用した。その際、交友関係、いじめ、学級経営等の問題に関わる内容については掌握し、職員の間で共通理解をはかり、学校全体で

対応した。

《3回目》

1月は1, 2年生を対象にし、担任による面談だけではなく、学年職員による教育相談を実施した。生徒の諸問題だけでなく、次年度の活動にもつながるよう、生徒一人ひとりの対人関係、家庭環境、身体的・心的状況、学業などの多面的な情報を収集することも目的としている。

定期的に「教育相談」を実施していることや、小規模校ということで普段から全教職員が全校生徒との関わるができるメリットなどから、生徒の困っていることや不安なことについて、いち早く対応できていると考えられる。その他、予防的心理教育として、男女共同参画センターの外部講師を招き、1年生を対象に「人と人のよりよい関係をつくるための教室」を4月に実施した。3年生については、3月に実施する予定である。2年生対象としては10月に助産師の先生を呼び、「思春期教室」を実施した。このような取り組みも、安心して学校に通う生徒が多いことにつながっていると考えられる。

しかし、すべての生徒が「学校にはいじめや暴力などがなく、安心して学校に行っている。」と答えている訳ではないので、生徒一人ひとりの悩みや不安に、教職員がよりその姿勢を忘れないよう、常にアンテナを高くしていきたい。

【保護者用学校評価アンケート結果について】

全ての項目で平均値3.0を超えており、昨年度と比べても大きく下がった項目はない。概ね良好な結果といえる。その中で最も数値が高かった項目と低かった項目をそれぞれ挙げると、以下のようになる。

【最も高かった項目】

- | | |
|----|---|
| 1 | 子どもは楽しく充実した学校生活を送っている (3.5) |
| 8 | 子どもは部活動に意欲的に参加している (3.5) |
| 10 | 子どもは多くの行事に意欲的に取り組んでいる (3.5) |
| 15 | 学校は行事や授業参観等、保護者が参観できる機会を積極的に設けている (3.5) |
| 16 | 学校にはいじめや暴力がなく、子どもは安心して学校に登校している (3.5) |

【最も低かった項目】

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 6 | 子どもは敬語など正しい言葉遣いができている (3.1) |
| 3 | 学校では授業を工夫し、きめ細やかな指導に努めている (3.2) |
| 7 | 学校はそうじがいきどといてり、気持ちの良い環境を整えている (3.2) |
| 12 | 中学校からのお知らせや便りなどを子どもから受け取っている (3.2) |

(1) 保護者と生徒、教職員との意識の差について

「高かった項目」については、保護者だけでなく、生徒のアンケート結果も同じように高い結果となっている。生徒達が頑張ったという項目については、保護者の数値が高くなっているということがいえる。

反対に「低かった項目」については、生徒や教職員との意識の差が見られた項目もある。項目6「言葉遣い」では、生徒と教職員の数値は「3.4」と「2.8」であり、生徒は比較的高い数値であるが、生徒>保護者>教職員の順にだんだん数値が下がってくる。項目7「学校はそうじがいきどといてり、

気持ちの良い環境を整えている」と、項目12「お知らせやお便りを子どもから受け取っている」についても、生徒>保護者>教職員の順で、だんだん数値が下がっていく。この3つの項目（「言葉遣い」「そうじ」「お知らせ」）について、自分ではできていると考える生徒が多いが、保護者、教職員と順にそれ程できていないと考えている状況が分かる。教職員が生徒へ継続的に指導をするとともに、保護者への協力もお願いしながら、この数値の差を少しずつ埋めていきたいと考えている。

（2）学力向上への取り組み

①研究・研修について

項目3「きめ細やかな指導（授業）」について、まず今年度、本校での取り組みについて紹介しておきたい。「わかる授業」を行うことが、確かな学力の向上につながるとして、日々の授業改善を進めている。一昨年度からテーマを「主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～授業における『見通す・振り返る』学習活動の実践を通して～」として、各教科において、「見通し・振り返る」学習活動を積極的に授業に取り入れ、研究や研修に取り組んでいる。年間を通じて、各教科の研究計画をもとに日々の授業に取り組むとともに、指導主事を招いての授業研究（6～11月）を行っている。また、10月には、校内の教職員どうしで相互に授業参観をし、お互いの成果や課題について伝え合う「相互授業参観」を行った。

項目14～18については、その学習活動を生徒がどう感じているかを確認する項目となっている。昨年度と比べても、数値は大きく変化していないが、3.0前後で推移している。ある程度の成果は表れていると考えられるが、この活動がどれ程、生徒の主体的な学習へと結びついているのか、はっきりとしていない。来年度は、より具体的に成果がわかるよう、研究・研修テーマや内容について検討するつもりである。

②学力向上アクションプランについて

「学力向上」について、今年度もう1つ取り組んだことは、「学力向上アクションプラン」【資料】がある。このアクションプランは、毎年行っていた千葉県学力状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果分析をもとに、本校の生徒の学力の課題を明らかにし、具体的な目標や取り組みを示したものである。今までも市学力状況調査（3月・2年生）や全国学力・学習状況調査（4月・3年生）は毎年、実施してきた。しかし、その分析や目標、取り組みについては、家庭や地域に対して具体的に示していなかった。今年度は、具体的にアクションプランを示し、このプランに基づいた学年・学級・教科経営を行うことで計画的・総合的に学力向上に取り組んでいきたい。

【教職員学校評価アンケート結果について】

教職員については、回答者数が16名であり、毎年、複数の職員が転出入するため、生徒・保護者よりも、年度ごとに平均の数値の振れが大きくなってしまいう傾向がある。その中でも、特に数値が低く、教職員が課題だと感じているものは次の3つである。

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 4 | 子どもは、普段から進んであいさつしている。（2.5） |
| 20 | 道徳の授業は楽しく、充実している。（2.6） |
| 7 | 学校はそうじがいきとどいており、気持ちの良い環境を整えている。（2.7） |

(1) 挨拶について

この項目について、生徒の数値は3.2であり、教職員の数値2.5とは開きがある。「普段から進んで挨拶している」と答えた生徒は多いが、教職員側からみると進んで挨拶をしているとはいえないと認識していることが分かる。また昨年度と比べてみても、生徒、教職員ともに、数値が下がっている。この項目については、昨年度も課題としてとらえており、学校としては、以下のような手立てを実施している。

【挨拶や礼儀についての手立て】

- ① 教職員が機会をとらえてあいさつや礼儀の大切さなどを生徒に伝え、社会に出てからの所作を学ぶ。
- ② 生徒会や部活動が行っている「あいさつキャンペーン」をより活発になるようにはたらきかける。
- ③ 学校だけでなく、学校外でも同様にあいさつや敬語などの言葉づかいができるように各家庭に協力をよびかける。

もともと本校は小規模校であるため、お互い幼い頃からよく見知った仲の生徒が多いという状況がある。生徒会の活動としては、朝、昇降口で「挨拶運動」を行うとともに、6月を「あいさつ強化月間」とし、積極的に挨拶運動に取り組んでいる。また、部長会として、毎日、完全下校時刻前、校門での運動系の各部活動による「挨拶活動」がある。このような状況や活動から、生徒たちは「自分は進んで挨拶できている」と考える生徒も多いと推測できる。

しかし、大半の教職員は「社会に出た際にはまだまだ進んで挨拶をしているとはいえない」と考えている。今後は、職場体験や上級学校訪問、修学旅行、校外学習など校外に出たときや、学校行事に地域や保護者の方が学校に来たときに、「自分たちの挨拶や言葉遣いはどうだったか」考えさせ、客観的に自分について考えさせる機会をつくることも経験させたい。

(2) 道徳の授業について

平成31年度より実施される学習指導要領では、「道徳」が教科化される。本校でもそれに向けた取り組みとして、今年度、全体校内研修を2回行った。1回目(6月)は指導主事を講師として招き、「教科としての指導計画の立て方」「評価の方法・内容」などについて研修を行い、2回目(11月)は、道徳部会で協議した指導案をもとに、実際に授業をし、その後に協議会を設け、全体研修を行った。このようなことから、道徳の教科化にむけての準備を進めているところである。しかし、それでも「道徳の授業は楽しく、充実している」と考える教職員が少ない背景には、「道徳の教科化」に対する不安がある。「授業をどのように評価につなげていくのか」「内面的な成長をどのように見取ればよいか」など、不安に感じている教職員は多い。来年度はいよいよ道徳は教科となり、教科書が配布され、通知表への評価も始まる。今後は、実際に授業を行う中で、継続的に成果や課題を整理していく必要がある。

(3) 清掃について

日々、授業終了後の5分後から15分間、服装は体操服またはジャージで、清掃活動を行っている。場所としては各普通教室(1A~3B)、各廊下・階段、特別教室(職員室、事務室、音楽室など)、体育館であり、昇降口付近の外回りもできる範囲で清掃を行っている。そして、教職員は次の3つのことを意識しながら、生徒の指導に取り組んでいる。

《基本的な考え》

- ・ 進んで身の回りの生活環境を整え、美しい環境を維持する態度を養うとともに愛校心を育てる
- ・ 清掃活動を通して、勤労の意義と大切さを学ぶ
- ・ 清掃用具の維持・管理を通して、物を大切に扱う習慣をつける

次に、今年度の重点目標として、次の3つの項目を確認している。

《今年度の重点目標》

- ・ 開始時間前に体操服に着替え、清掃場所へ移動し清掃する
- ・ 時間いっぱいまで自分の清掃担当場所で清掃を行う
- ・ 大掃除（夏季・冬季休業前、年度末）を充実させ、特別教室の大掃除をローテーションで行う

今年度、アンケート結果から、清掃活動に課題を感じている教職員が多い。その理由として、教職員への個別のアンケート結果から次のことが挙げられた。

【今年度、教職員が捉えている清掃活動の課題】

- ① 開始・終了時刻が厳守できていない
- ② 一部の生徒について、話をしていたり、進んで作業ができなかったり、取り組みに差が見られた
- ③ 毎日清掃が必要な場所と、毎日必要でない場所の清掃分担の見直し

特に意見が多かったのは、①の「開始・終了時刻」についてである。これについては、生徒だけでなく教職員も、さらに時間を意識して指導にあたらなければならない。対策としては、次のようなことが考えられる。

- ・ 授業終了5分後に清掃が始まるので、授業者は授業終了後に生徒（教科係）が行う「授業評価」を素早く行わせ、速やかに掃除場所への移動を促す。
- ・ 清掃担当の教職員は、開始時刻には清掃場所へ到着し、遅れて来る生徒について、すぐ清掃活動を行うよう声をかける。
- ・ 終了時刻を意識して、早く終わった場所や終わらない場所を確認しながら、指示を出す。
- ・ 普段から、清掃活動を通してどんなことを学んでほしいか、目的や目標について生徒にしっかりと伝える。

今後、全教職員で意識しながら、このような対策を実施していきたい。その他の「清掃活動への取り組み方」や「分担場所の見直し」についても、次年度対策委員会で話し合うことになっており、その他の課題について、さらなる対策が必要かどうか検討を行う予定である。

3 次年度に向けての改善点について（まとめ）

学校評価アンケート結果から、生徒や保護者の数値は、昨年度と大きく下がった項目はなく、すべての項目で3.0を上回っている。生徒や保護者の学校への評価は概ね良好だといえる。しかし、生徒・保護者の一人ひとりを見てみると、すべての項目で肯定的な回答とはいえない。つまり安に数値が高いから「良い状態」とはいえない場合もある。また、いくつかの項目をみると、生徒・保護者・教職員間での意識の差や、学校として来年度から本格実施される学習指導要領に向けて改善しなければならない課題が明らかになった。次年度では以下の3項目について重点的に改善に取り組みたい。

(1) 「挨拶や敬語などの言葉づかい」について

これらの項目について、生徒、保護者はともに平均値が3.0を超え、高い数値となっている。しかし、教職員の数値は大きな差が見られた。学校の課題として捉えている教職員が多いことが明らかとなった。挨拶や礼儀について、今年度、手立てを以下のように取り組んだが、来年度は生徒たちに客観的な視点を持ってもらうために、以下のような手立てに取り組みたい。

【挨拶や礼儀についての手立て】（○は昨年度からの継続の項目、★は来年度から追加する項目）

- 教職員が機会をとらえてあいさつや礼儀の大切さなどを生徒に伝え、社会に出てからの所作を学ぶ。
- 生徒会や部活動が行っている「あいさつキャンペーン」をより活発になるようにはたらきかける。
- 学校だけでなく、学校外でも同様にあいさつや敬語などの言葉づかいができるように各家庭に協力をよびかける。
- ★校外学習などの学校行事や地域行事の際、周りはどうのように感じているか、客観的に自分について考えさせる学習活動を意図的に経験させる。

(2) 「清掃活動」について

清掃活動について、生徒＞保護者＞教職員の順で数値が低くなっており、特に教職員はかなり数値が低い。個別のアンケート結果からも、今後、対応の必要がある。具体的な手立てとしては、以下の通りである。

【清掃活動についての手立て】

- 授業終了5分後に清掃が始まるので、授業者は授業終了後に生徒（教科係）が行う「授業評価」を素早く行わせ、速やかに掃除場所への移動を促す。
- 清掃担当の教職員は、開始時刻には清掃場所に到着し、遅れて来る生徒について、すぐ清掃活動を行うよう声をかける。
- 終了時刻を意識して、早く終わった場所や終わらない場所を確認しながら、指示を出す。
- 普段から、清掃活動を通してどんなことを学んでほしいか、目的や目標について生徒にしっかりと伝える。

その他、「清掃活動への取り組み方」や「分担場所の見直し」についても、次年度対策委員会で話し合い、来年度に向けて、さらなる対応が必要かどうか検討を行う。

(3) 「わかる授業」について

教職員は授業の中で「見通す・振り返る」学習活動を取り入れ、「わかる授業」のための授業改善を行っている。また、指導主事を招いての授業研修、校内の職員どうしでは相互授業参観を実施している。それに加えて今年度は「学力向上アクションプラン」を作成した。このプランに基づいた学年・学級・教科経営を行い、より計画的・総合的に「わかる授業」に向けた教育活動ができるようにしたい。

(4) 道徳教育について

平成31年度より実施される学習指導要領では、「道徳」が教科化される。それに伴い、「授業をどのように評価につなげていくのか」「内面的な成長をどのように見取ればよいか」等、不安に感じている教職員がいることも明らかになっている。来年度は全体の研修計画の中に、意図的に「授業実践の振り返り」や「評価の具体的な仕方」についても、外部の講師や、校内の職員全体で確認しながら、広い視野を持って取り組めるようにしていきたい。